

道徳科 六年 地域教材

三次市立神杉小学校

## あいさつで創る塩町中学校区

塩町中学校区には、塩町中学校、田幸小学校、和田小学校、川西小学校、そして神杉小学校の五つの学校があります。どの学校でも、「あいさつ運動」に力を入れています。神杉小学校でも、毎朝、児童会役員の五人が児童玄関の前に立ち、登校してくる児童に元気いっばいあいさつをしています。黄色いたすきを肩からかけ、きりっとしてあいさつをする姿は、下級生のお手本です。

貴司さんはそんな先輩にあこがれ、自分もあいさつ運動がしたいとずっと思っていました。(これまでの児童会役員の人たちのように、みんなのお手本になるようなあいさつをしよう！)と思い前期児童会役員に立候補し、会長になりました。引継ぎ式を終えて、今日から貴司さんたち新役員があいさつ運動をスタートします。あいさつ標語が書かれたのぼり旗を手にした貴司さんは、きんちようしてドキドキすると同じ時に、身が引き締まるような気持ちで児童玄関前に立ちました。

この、のぼり旗にあるあいさつ標語も、塩町中学校区の五つの学校で取り組んでいるものです。各校で全児童、全生徒が考えたあいさつ標語の中から選ばれた優秀作品はポスターに、さらに、その中で特に良かった作品二点が、最優秀作品としてのぼり旗に掲げられます。どの標語もあいさつをするこの良さが、上手に表現されています。この標語を見

最優秀	最優秀	最優秀	最優秀	最優秀
あいさつは こころをかえる ふしぎだね 神杉小学校 二年 宗安 淳平	泣いていい けんかしていい でもおはよ 田幸小学校 六年 落合 奏心	ありがとう 伝えて広がる えがおのわ 川西小学校 三年 末國 由愷	あいさつで 心のパワー じゅう電だ 和田小学校 三年 石井 睦翔	あいさつで つくる笑顔の 貯金箱 塩町中学校 一年 銀崎 光希

令和三年度 塩町中学校区  
あいさつ標語 優秀作品

ていると、会ったこともない塩田中学校区の他校の人たちと、つながっているような気がしてきます。

朝、七時四十分ごろ。神杉小学校の校門の向こうに登校班の列が見え始めます。貴司さんは、ますますドキドキしながら、大きく息を吸って、

「おはようございますー！」

と、思いきり声を張り上げました。すると、

「おはようございますー！」

と、貴司さんの声よりもっと大きな声が、青門の方からも白門の方からも返ってきました。貴司さんは、うれしくて何だか心が軽くなったような気がしました。さっきまでのドキドキがうそのようになくなり、いちだんと大きな声で、登校してくるみんなに向かってあいさつをし続けました。すると同じ六年生の真由美さんが、

「おはよう。貴司さん、初めてのあいさつ運動だね。毎朝、大変だと思うけどがんばってね。」

と声をかけてくれました。すると、そばにいた健二さんも、

「あいさつは神杉小学校の自慢だもんね。『レベル5』のあいさつが広がるようにがんばれよー！」

と、貴司さんの肩をたたきます。

「わかっているよ。」

友達にはげまされて少し照れながら、貴司さんは、この前担任の伊藤先生が読んでくれたあった作文のことを思い出し



ていました。それは、神杉小学校の児童会役員としてあいさつ運動をがんばっていた先ばいが、社会を明るくするた  
めにはどうしたらよいかを考えて書いた作文です。

……。社会全体を今すぐ明るくするために、ぼくにもできることがあると考えました。ぼくの身近なところから明  
るくしていけば、いつか社会全体が明るくなると思います。例えば、ルールやマナーを大切にすることが、社会を明  
るくする第一歩だと思います。一人ひとりが、交通ルールや人と接する時のマナーを大切にすれば、お互いが気持ち  
よく生活できるはずです。

また、あいさつも大切だと考えます。ぼくは、児童会執行部に所属していて、毎朝あいさつ運動をしています。学  
校のみんなに毎朝元気よくあいさつをしています。ぼくがあいさつをするとき、いつも元気なあいさつを返してくれま  
す。最近は、近くの保育所を通る地域の人もぼくたち執行部のあいさつに反応してくれるようになりました。遠く離  
れていてもおじぎをしてくれたいさつを返してくれるようになりました。学校の人々に限らず、地域の人々もあいさつ  
が広がっている気がしてうれしくなります。だからあいさつもみんなが明るく生活するために必要だと思います。

わいびい、道徳の授業で、「思いを思いまおう。」とこの言葉について考えたことを思い出します。この言葉が、「思う  
だけでは何も変わらない。思いまおうと行動しようといふと変わる。」とこのよいな意味です。ぼくはこの言葉が、  
何か少しでも実行するものが大切だと思います。だから、社会を明るくするために、これからあいさつを続けて  
いきたいと思います。

【令和三年度六年生 戸島 豊生くんの作文の一部引用】

『あいさつはみんなが明るく生活するために必要』

今日、初めて児童玄関前に立ってあいさつ運動をしてみて、作文にあった先ばいの言葉が心にびびきます。きんちょうでスタートしたあいさつ運動でしたが、今朝の役目を終えて、貴司さんは明るくさわやかな気持ちになっていました。次々に登校してくる友だちの笑顔やお母さんと手をつないで神杉保育所にやって来るかわいい園児さんが、

「おはよう。」

と、もう片方の手をぶら下げてくれた姿が、目にやさしいです。

「ぼくたち児童会役員のあいさつで、神杉小学校をもっと明るくしよう。そして、あいさつの輪をもっともっと地域へ広げていこう。」

明日の朝のあいさつ運動を楽しみに思いながら、貴司さんは児童会の仲間とともに六年生教室へ向かって階段を上っていました。



令和3年度後期児童会  
役員の刈り

【教材作成に協力してくださった人】令和3年度六年生 戸島 碧生 くん

【文責】深田 真規子